

鷹ノ巣低砲台

探索レポート

和歌山県立向陽高等学校 2年F組 山木 大馳

目次

- | | |
|-------------|------------|
| 1.はじめに | 2.広島湾要塞とは |
| 3.鷹ノ巣低砲台の概要 | 4.同低砲台探索結果 |
| 5.由良要塞との比較 | 6.おわりに |

4. 鷹ノ巣低砲台探索結果

鷹ノ巣低砲台概要図



地点① 建物基礎跡・排水路

海岸に降りる道に建物基礎と排水路がある。

建物基礎 (図 3) は切り開かれた平地にあり、砲台の警備を担う兵士が駐在した**監守衛所**などがあったと考えられる。

排水路 (図 4) は侵食され崩落しているが、排水路がどのように造られているかがよくわかる。



地点② 斯加式九糧速射加農砲の崩落した4門の砲床

海岸線まで崩落した4門の砲床。(図5) もともと砲座があった場所はレンガが散乱し、殆ど原型を留めていない。砲床だけでなく石垣も多く散乱していた。砲床には加農砲が設置されていた事がわかる穴がある。(図6)



地点③ 二十七糧加農砲の崩落した砲床2門の砲床

こちらの2門は地点②で紹介した4門より**保存状態が良好**。まず海岸へ降りる道からはレンガ（イギリス積み）の構造物を見る事ができる（図7）。海岸から見ると、九糧速射加農砲の4門では完全に崩れていた砲座が少しだけ残っており（図8）、砲床は崩落しているものの金属の取り付け具などが残る。（図9・図10）

図6の九糧速射加農砲の砲床と比較すると、「二十七糧加農砲の砲床の方が大きい・九糧速射加農砲の砲床よりも穴が少ない」などの差があることがわかる。



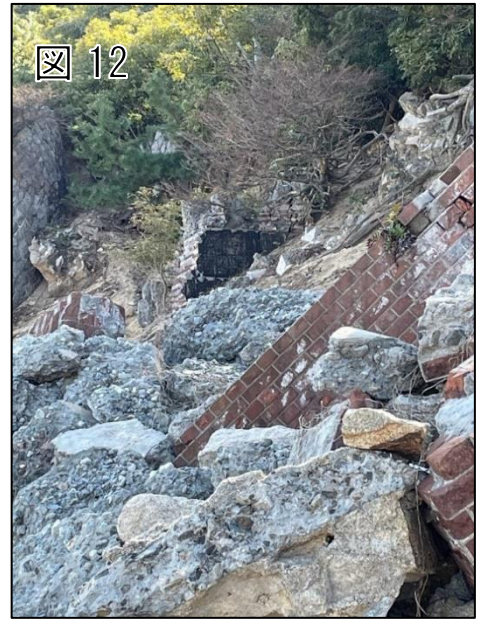
地点④ 地下弾薬庫（兵舎・指揮所の可能性もある）

二十七糎加農砲座の間に位置するこの遺構。元々は地下にあった構造物と考えられるが完全に露出している。入口が崩落し、内部の状態がわからないので用途ははっきりしていない。**地下弾薬庫・兵舎・指揮所**などと考えられている。左側の庫にある、煙突のようなものは通気口である。（図 11）

石垣の上にコンクリートを敷き、積んだレンガにモルタルを塗っている。図 12 の二十七糎加農砲座跡のレンガにもあったが、モルタルの上に黒いナニカが塗られている。推測であるそうだが、**アスファルト**といった**防水関連のもの**ではないか？の事。湿気次第で砲弾・火薬の性能が大きく変わる。弾薬庫は湿気対策が各所に施されるため防水のためのアスファルトという推測には合点がいく。地下弾薬庫が露出している砲台の例は少なく、ある意味希少な遺構である。

また弾薬庫の周囲には様々な崩落物があった。図 13・14 の管は由良要塞の深山第一砲台にあった遺構（図 15）と似ている。当時の砲台は伝声管で連絡を取っていたため、**伝声管関連の遺構**ではないかと考えている。

*図 13 の管は図 14・15 の管とは少し違ったため別の用途の可能性あり。



山側へ登ると地下弾薬庫へ通じるトンネルがある。(図 16) しかし片方の入り口は石で、もう一方は金網で閉鎖されている。内部には砂が流れこんでいるものの、トンネルの崩落は免れている。(図 17)



地点⑤ 二十七糎加農砲 2 門の砲座

地点③の砲座付近のトンネル入り口は周囲と同じ程度の高さである。しかし別の二十七糎加農砲 2 門があるこの場所は周囲よりも少し低くなっている。(図 18) この窪地には**即用弾置き場** (弾薬庫から持ってきた砲弾を置いておき、すぐに使えるようする場所) が多くある。またトンネル付近には**金属片がある謎の遺構** (図 19) があった。重い砲弾を慎重かつ丁寧に、高所の砲へ持って行くのは非常に危ない。そのため砲弾を運ぶクレーンなどがあったのではないかとのこと。他の砲台では見たことがなく非常に面白い遺構であった。



海岸へ崩落している地点③の 2 門はコンクリート製の砲床がある。しかしこの 2 門の砲座は海岸へ崩落している痕跡が無いのにも関わらず、砲があった場所にコンクリート製の砲床が無かった。また、下の窪地同様即用弾薬置き場が多くある。(図 20)

この 2 門は他の砲座と比べると比較的良好な保存状態であるがやはり破壊されていた。砲床はどこへ行ったのか? なぜ窪地を設けたのか? など多くの疑問が残った場所でもある。



地点⑥ 観測所

地点⑤の遺構から、崩壊した階段が伸びており、その先に**観測所・砲台長位置**がある。(図 21)

石柱がある場所が観測所でその奥が砲台長位置。観測所の3本の石柱はイタリアから輸入した**武式測遠機**が設置されていた。他の砲台の観測所では金属の掩体蓋が設置されている場合があり、この観測所も掩体蓋が設置されていたと考えられる。この観測所はモルタルが塗られており一際目立っていた。

地点⑦ 鷹ノ巣電燈

敵艦が侵入してくるのは昼間とは限らない。日清戦争や日露戦争では日本海軍は敵の軍港に対し夜襲を仕掛けている。何度か行われた日露戦争における夜襲は、一部の夜戦にて敵砲台の電燈（探照灯）に照射され撃退された。このように夜間に侵入する敵に対処するために**必須なのが電燈**である。

広島湾要塞には計3つの電燈所が設置された。砲台は何一つとして同じ規格のものが無い。しかし広島湾要塞の電燈所は**すべて規格が同じ**だそう。

鷹ノ巣電燈は鷹ノ巣低砲台とは異なりほぼ完全な形で残っている。(一部金属盗難の被害を受けている)(図 22) また仕組み・形は由良要塞の電燈所にも類似している。(図 23)

明治期の要塞の電燈所は殆どが**昇降式**である。通常時は地下電燈井に格納し、有事の際は電燈昇降機によって上にあげて使用する。鷹ノ巣電燈にはその昇降機があったと思われる跡が残っていた。(図 24)

地下電燈井の手前には操作室と考えられる遺構もある。(図 25)

上には立派な電燈座が残っている。(図 26) ここからは厳島海峡を一望することができる。(図 27)

電燈はシ式 90 cm射光機で、炭素棒を燃やすことで強い光を発することができた。電燈所付近には電燈へ電気を供給する発電施設があったと考えられるが、その遺構がどこにあったかは不明瞭。





5. 由良要塞との比較

<由良要塞とは>

比較を行う前に由良要塞の概要について説明する。由良要塞は紀淡海峡防衛のため、淡路島由良地区・友ヶ島・和歌山市加太にわたって造られた要塞である。(図28)

明治22年から築城が始まっており、着工自体は広島湾要塞よりも早い。しかし全ての砲台・堡塁が完成したのは明治38年と広島湾要塞よりも遅い。今回比較するのは私が訪れた事のある和歌山市加太側・友ヶ島の砲台・堡塁である。(淡路島側は未訪問のため)

*以下の写真で注釈のないものは鷹ノ巣低砲台のもの



比較① 斯加式九糶速射加農砲座

由良要塞には九糶速射加農砲が図28の青でマークしている場所に備えられていた。しかし訪れたことのある和歌山市内の3堡塁の砲床は完全に埋まっているため比較できなかった。

比較② 二十七糶加農砲座

鷹ノ巣低砲台に備えられていた二十七糶加農砲は、加太砲台・友ヶ島第一・第二砲台(図28の赤でマークしている場所)にも備えられていた。図29図30で砲床を比べると面白いことがわかる。見てみると、砲の取り

付け金具がある点は同じであるが、加太砲台の砲床は中心に穴があることがわかる。

この理由としては、鷹ノ巣低砲台の二十七糎加農砲が国産の砲であるのに対し、加太砲台の二十七糎加農砲がフランスのシュナイダー社の斯式 30 口径二十七糎加農砲であったからだと考えられる。(友ヶ島第一・第二砲台は立ち入り禁止の為詳細な形が不明)



図 29



図 30 加太砲台

鷹ノ巣低砲台では完全に崩落している砲座だが、由良要塞では一部砲台は良好な状態で残っている。(図 31) 同じ二十七糎加農砲であるが、友ヶ島第一 (竣工明治 22 年)・第二砲台 (竣工明治 27 年) (図 33・34) と鷹ノ巣低砲台はモルタルが塗られておらず、明治 37 年竣工の加太砲台はモルタルが塗られているのが興味深い。加太砲台には図 32 のような弾薬庫がある。このような弾薬庫が鷹ノ巣低砲台にもあったのかもしれない。



図 31 加太砲台



図 32 加太砲台

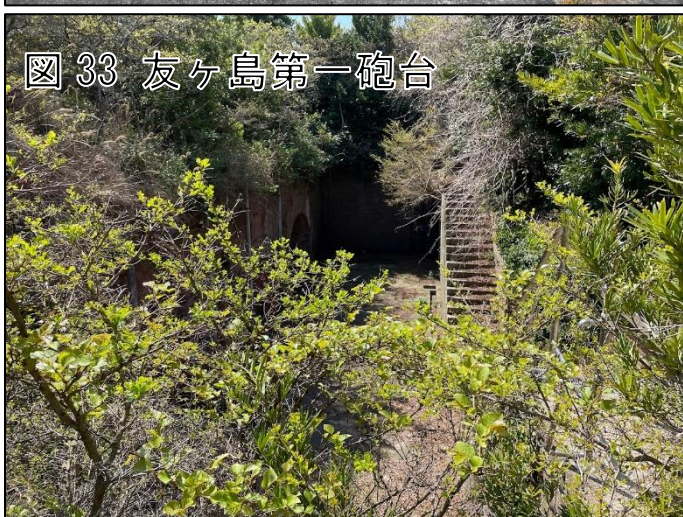


図 33 友ヶ島第一砲台



図 34 友ヶ島第二砲台

比較③ トンネル

鷹ノ巣低砲台にあるトンネルによく似た遺構が、図 28 で緑のマークをしている深山第一砲台と、先述した友ヶ島第一砲台にもある。(図 35) (図 36)

深山第一砲台は二十八糎榴弾砲、友ヶ島第一砲台は鷹ノ巣低砲台と同じ二十七加農砲である。

友ヶ島第一砲台のトンネルは、レンガがアーチ状になっている場所にモルタルが塗られていない。

一方で竣工が友ヶ島第一砲台よりも遅い、深山第一砲台と鷹ノ巣低砲台には塗られている。モルタルを塗るのは砲台が直撃した際の耐久性を高めるためであり、明治後期から塗られるようになったようだ。



図 35 深山第一砲台



図 36 友ヶ島第一砲台



図 37

比較④ 観測所

加太砲台と鷹ノ巣低砲台(図 38)の観測所(両観測所は同じ観測機)を比べると加太砲台では観測所の前に図 39 のような**掩蔽部**がある。加太砲台と同時期に造られた田倉崎堡壘(二十八糎榴弾砲)の観測所も掩蔽部がある。

(図 40) 二十八糎榴弾砲砲台である深山第一砲台の右翼観測所(図 41)は鷹ノ巣低砲台と同様**掩蔽部が無い**。築城された時期は、加太砲台・田倉崎堡壘が明治 37 年竣工、深山第一砲台が明治 30 年竣工、鷹ノ巣低砲台が明治 33 年竣工。深山第一砲台と鷹ノ巣低砲台は造られた時期が近いため観測所が似ていると考えた。

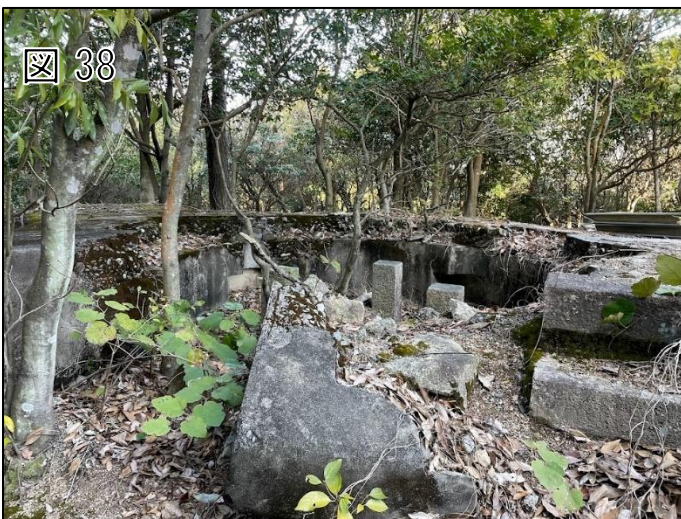


図 38



図 39 加太砲台



図 40 田倉崎砲台



図 41 深山第一砲台

比較⑤ 飲料水確保方法

多くの砲台に見られる井戸（図 42）や濾過式井戸（図 43）などが鷹ノ巣低砲台では見当たらなかった。しかし旧軍道の崖に図 44 のような湧き水が出る場所があった。面白い事に左下にある濾過器に水が伝わるように崖の岩が彫られている。このような方法での飲料水確保は初めて見たため非常に興味深かった。またこのような砲台・堡壘には必ずある厠（トイレ）（図 45）の遺構を鷹ノ巣低砲台では見つけることができなかった。また訪れた際に探したい。



図 42 加太砲台



図 43 深山第一砲台



図 44

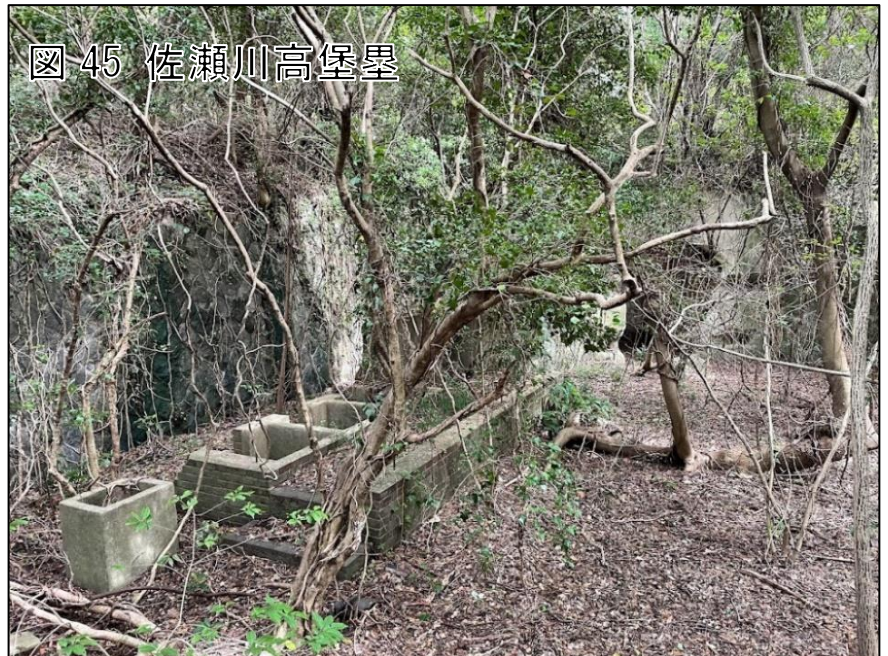


図 45 佐瀬川高堡壘

比較⑥ 境界石

鷹ノ巣低砲台付近では時間が無く、見つけることができなかったが境界石を包ヶ浦にて見つけた。（図 46）由良要塞のよくある境界石（図 47）とほぼ同じであるが、違う点として陸軍の境界石の横に別の（内務省）の境界石があることが挙げられる。包ヶ浦の補助建築物は大正 15 年の要塞整理にて管轄が第五師団経理部と内務省に移っているためこのようになっている。海軍管轄となった土地の境界石は、海軍の境界石と陸軍の境界石が隣り合っているらしい。防は防御建築物？の頭文字をとっていると思われる。数字は境界石の識別番号で、こういった陸軍用地には何百本という本数の境界石が刺されている。



図 46



図 47 佐瀬川高堡壘

以上のように6つの観点から由良要塞と鷹ノ巣低砲台（広島湾要塞）の比較を行った。比べることにより新たな発見があり非常に面白かった。

6. おわりに

今回の訪問で改めて戦争遺跡の奥深さを感じることができた。鷹ノ巣低砲台は破壊と崩落により詳しい全体像を把握することが難しかった。しかし、今まで訪れてきた遺構の情報を合わせて考えることでより理解を深めることができた。

最後となりましたが、情報提供や現地の案内をしてくださった軍艦利根資料館の城山健一様、同伴していただいた坂本修一先生、訪問を許可してくださった山中淑堯先生といった多くの方々へ、深く感謝申し上げます。

<参考文献>

国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図

「現代本邦築城史」第二部 第十九巻 広島湾要塞築城史（国立国会図書館デジタルコレクション所蔵）

「日本築城史-近代の沿岸築城と要塞」（浄法寺朝美著、原書房）

「歴史群像 特別編集 日本の要塞」（原剛監修、ムック本）

「戦争遺跡に行ってみた。～砲台探索と山口県の戦争遺跡」<https://ameblo.jp/mango2-100822/>

「アジア歴史資料センター 日露戦争Ⅱ」https://www.jacar.go.jp/nichiro2/sensoushi/rikujou07_detail.html

「二十八糎砲 Wikipedia」<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8C%E5%8D%81%E5%85%AB%E7%B3%8E%E7%A0%B2>

「旅順口攻撃 Wikipedia」<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%85%E9%A0%86%E5%8F%A3%E6%94%BB%E6%92%83>